

## 有明海における干拓の歴史

玉名市横島町・大浜町地区  
〔町並みの分類／農村〕

末広開西三枚戸樋門・東三枚戸樋門

## 町並みについて

- ◆ 菊池川下流域に位置する横島町の大部分と大浜町の一部は江戸期以降の干拓によって造成された地域であり、干拓事業ごとの堤防がほぼそのまま残っています。干拓事業は江戸期から盛んに進められ、最後に行われた国営横島干拓(1967年)までの75ヶ所の干拓地から、うろこ状に陸地が広がった様子がわかります。
- ◆ かつての潮受堤防であった石垣群をはじめとする干拓関連施設は、民家と農地が調和した独特の農村風景を形成しています。



## 町並みの中心(核)となる伝統的建造物


**旧玉名干拓施設**

国重要文化財

- 4堤防…末広開潮受堤防、明丑開潮受堤防、明豊開潮受堤防、大豊開潮受堤防
- 3樋門…末広開東三枚戸樋門、末広開西三枚戸樋門、末広開二枚戸樋門



明丑開潮受堤防

- ◆ 明治期に築造が始まった干拓堤防がこのような規模と良好な状態で総延長約5kmにわたって残る例としては国内にない、“玉名の万里の長城”とも称されています。産業の近代化に貢献した遺産であり、土木的にも優れた価値を持つ建造物です。

熊本県は全国でも有数の干拓地がある県であり、同地区は八代海沿岸とともにその歴史を象徴する地域です。近代以降、工業地帯へと変容していく干拓地も多い中で、同地区の干拓施設は築造当初からの姿をほぼそのまま今に伝えており、本県の農業を支える役割も大きいものがあります。